

一柳 慧

Toshi Ichinyanagi

1933年2月4日、神戸生まれ。作曲家、ピアニスト。作曲を平尾貴四男、池内友次郎、ジョン・ケージ、ピアノを原智恵子、ヴィヴェレツジ・ウェブスターの各氏に師事。第18回(1949)および20回(1951)毎日音楽コンクール(現、日本音楽コンクール)作曲部門第1位入賞。1954年から57年までニューヨークのジュリアード音楽院に学ぶ間、エリザベス・クーリッジ賞(1955)、セルゲイ・クーセヴィツキー賞(1956)、アレクサンダー・グレチャニノフ賞(1957)を受賞。「20世紀音楽研究所」フェスティバルの招聘により1961年帰国。自作および日欧米の新しい音楽の紹介と演奏を行い、さまざまな分野に強い刺激を与える。1966-67年、ロックフェラー財団の招聘により再度渡米、アメリカ各地で作品発表会を行う。1976年、ドイツ学術交流会(DAAD)の招聘でベルリン市にコンポーザー・イン・レジデンスとして半年間滞在。欧州各地の音楽祭で自作の発表と邦人作品の演奏をおこなう。その後も再々訪欧し、ヨーロッパのプロムジカ・ノヴァ・フェスティヴァル(1976)、メタムジーク・フェスティヴァル(1978)、ケルン現代音楽祭(1978、81)、オランダ音楽祭(1979)、ベルリン芸術週間などから委嘱を受ける。1981年《ピアノ協奏曲第1番「空間の記憶」》で第30回尾高賞を受賞。1984年に、作曲、演奏、プロデュース活動に対して中島健蔵最優秀賞を、また《ヴァイオリン協奏曲「循環する風景」》で2度目の尾高賞を受賞。同ヴァイオリン協奏曲は、同年2月にニューヨークのカーネギー・ホールでアメリカ初演された。同じ年の6月には現代音楽祭「今日の音楽」のテーマ作曲家として、西武劇場において多数の作品が演奏され、同じ月には日仏文化サミットの一環として、武満徹とともにバリのシャンゼリゼ劇場でフランス国立管弦楽団によるオーケストラ作品の演奏会が行われた。1985年5月、フランス共和国芸術文化勲章を受章。1988年11月、サントリー音楽財団(現、サントリー芸術財団)の主催による「作曲家の個展'88-一柳慧」で、同財団委嘱の《交響曲「ベルリン連詩」》を発表。この演奏会は、1989年1月の第30回毎日芸術賞を受賞する。1989年にはこれまでの一連の活動に対して京都音楽賞大賞を、《ピアノ協奏曲第2番「冬の肖像」》により3度目の

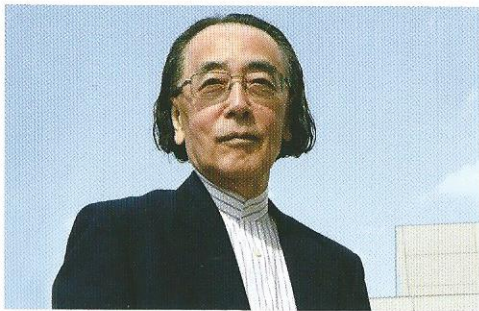


Photo: Koh Okabe

尾高賞をそれぞれ受賞。翌1990年、《交響曲「ベルリン連詩」》で、4度目の尾高賞を受賞。80年代から90年代にかけて、国立劇場からの委嘱により、《往還楽》、《雲の岸、風の根》、《伶楽交響曲「闇を溶かして訪れる影」》などの、雅楽、伶楽、声明、舞のための大規模な作品を継続的に発表。1989年9月には、国立劇場の二つのホールを同時に使用する《伶楽交響曲第2番「日月屏風一隻虚譜」》が初演。1989年に伝統楽器群と声明を中心とした合奏団「東京インターナショナル・ミュージック・アンサンブル-新しい伝統」(TIME)を組織。以来、アメリカ各都市と、イギリス、ドイツ、オーストリア、フランス、ノルウェーなどヨーロッパ各地の演奏旅行を行い、ベルリン・フェスティヴァル(1992)、ウィーン・モデルン(1996)、ハダースフィールド現代音楽祭(1992)、ウルティマ・オスロ現代音楽祭(1997)など多くの音楽祭に出演した。自身の伝統楽器群と声明、舞のための《道》、《道II》など、欧米各地で演奏された。2002年には第33回サントリー音楽賞を受賞。2004年、パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)のコンポーザー・イン・レジデンスに就任。2006年、《モモ》《光》に続き3作目のオペラ《愛の白夜》を神奈川県民ホールにて初演。オペラ《ハーメルンの笛吹き男》は4作目のオペラとなる。1999年に紫綬褒章を、また2005年には旭日小綬章を受章。2008年文化功労者。現在、TIMEの芸術監督、アンサンブル・オリジン—千年の響き音楽監督、日本音楽コンクール顧問、セゾン文化財団評議員、サントリー芸術財団評議員、神奈川芸術文化財団芸術総監督などをつとめ、現代音楽の普及にも携わる。

Program

- 私のうた
My Song [1994]
吉川真澄、神田佳子 (Voice, Marimba)
- 忘れえぬ記憶の中に
In a Living Memory [2000]
木埜下大祐 (Flute solo)
- シーンズ I
Scenes I [1978]
ROSCO
〔甲斐史子、大須賀かおり〕(Violin, Piano)
- 時の佇い III
Still Time III [1987]
篠崎史子 (Harp solo)
- パガニーニ・パーソナル (2台ピアノ版)
Paganini Personal [2011]
飯野明日香、福士恭子 (2 Pianos)
- ピアノ音楽第8
Music for Piano No.8 [2012]
一柳慧、有馬純寿 (Piano, Electronics)
- 雲の表情 IV.雲の滯 IX.雲の潮 I.
Cloud Atlas
IV.Cloud Vein [1987]
IX.Cloud Current [1989]
I. [1985]
高橋悠治 (Piano solo)
- 夏の花
Flowers Blooming in Summer [1982]
木村茉莉、木村かをり (Harp, Piano)
- 森の肖像
Portrait of Forest [1983]
菅原淳 (Marimba solo)
- レゾナント・スペース
Resonant Space [2007]
板倉康明、一柳慧 (Clarinet, Piano)
- ピアノ・メディア
Piano Media [1972]
高橋アキ (Piano solo)
作曲：一柳慧

休
憩

Program Note

私のうた

[1994]

1994年に「新しいうたを創る会」の委嘱を受けて、谷川俊太郎氏による新たなテキストと共に作曲されました。鼓動のようにひたすら刻むマリimbaに対し、歌は時に異なる拍子で、また時には同じ拍子となって拮抗と協調を行き来しつつ、噛みしめるような語りリズムで歌われます。曲が進むにつれ鼓動は高まって力強い生命のうねりとなり、ついには魂の叫びとなります。7年程前に、歌と打楽器の組み合わせに関心がある等と一柳先生にお話した折、思い掛けずこの譜面をいただいたのですが、作品に相応しい演奏の機会がなかなか訪れませんでした。本日このようなお祝いの会で念願叶って、素晴らしい共演者と演奏出来る事を、大変嬉しく思っております。(吉川真澄)

忘れえぬ記憶の中に

[2000]

このフルート独奏のための《忘れえぬ記憶の中に》は、2001年8月2日から11日まで兵庫県神戸市でおこなわれた第5回神戸国際フルートコンクールの委嘱により、第1次予選の課題曲として、作曲された。

難曲である。コンクールを機に書かれた曲であるから、技術的に難しいのはもちろんであるが、それをクリアして初めて表出する音楽的な面をいかに自然に描き出すか、が問われる曲であると思う。通常、楽曲は和声・旋律・リズムといった要素によって構成されているが、この曲では一定速度以上で適切に演奏されることにより、それら個々の要素を感じさせることのない有機的な音響空間が立ち現れる。(木埜下大祐)